

# 米倉教公の週間為替市場見通し

## 1/25 日週号

### 『日銀追加緩和の思惑相場』

ドル/円予想レンジ 117.70 - 119.80 円

#### ■前週の市場動向

週明け 18 日は前週末の欧米株安・原油安を受けて早朝取引で 116.495 円までドル売りが先行しました。しかし、午前中に発表された中国 10-12 月期 GDP は 25 年ぶりの低成長となりましたが、政策発動の期待から株価が上昇したことで、117 円台半ばまで戻りました。翌 19 日は米国長期金利上昇により 118.10 円台までドル買いが強まりました。しかし、原油安が強まると一転 NY ダウが下落し、長期金利が低下したためドル売りが強まりました。20 日は国際通貨基金 (IMF) が世界経済見通しを下方修正したことや、原油安とアジア株安を嫌気したドル売りが活発化し、下値目途とされていた 116.05 円を下抜けて 115.96 円まで売り込まれました。ただ、急速な円高を受け政府関係者から『為替市場の動向を注視している』との発言が伝わると急反発し、117 円台を回復しました。21 日に柴山首相補佐官が『日銀の追加緩和を判断するのはまだ早い』との発言を受け、116 円半ばまで再下落しましたが下値は限定的でした。ドラギ ECB 総裁が記者会見で追加緩和を示唆すると、リスク選好の動きが広がったほか、日経新聞による『日銀が追加緩和を検討している』との記事もリスク選好の動きを加速させ 118.80 円台まで持ち直しました。

#### ■今週の注目点：日銀会合終了までは底堅い動きに

26-27 日の FOMC で外部環境の悪化について、FRB が何らかのメッセージが出る可能性があります。また、28-29 日の日銀会合では、週末から高まった追加緩和を織り込む動きとなっていることから、緩和が見送られた場合は失望売りが進む可能性が高くなります。日銀が実際に緩和を実施しても政策内容によっては逆効果になる可能性があります。ETF の買入れ増額などが盛り込まれないと、前回国会後の二の舞となる可能性があります。

#### ■テクニカル的な見解

1 月 19 日付のシカゴ IMM 投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の +25,266 から +37,653 へと円の買い持ちが 2012 年 2 月以来最大となりました。それだけに、ポジションの巻き戻しが活発化すると、円は下落しやすい環境にあると言えます。12 月 18 日の高値 : 123.635 円と 1 月 20 日の安値 : 115.96 円の 38.2% 戻り 118.892 円が直近のレジスタンスラインとなります。また、50% 戻りは 119.798 円で半値戻しを上抜けすると 18 日を目指す展開となります。下値では 29.8% 戻し (白銀比率) の 118.247 円、23.6% 戻しの 117.771 円がサポートラインとなります。もし、市場に失望感が表面化すると、20 日安値 115.96 円、15 年 1 月 16 日安値の 115.83 円、14 年 12 月 16 日安値の 115.55 円が目途となります。



#### ★先週の気になる出来事

先週は、日経平均株価が 1 万 6017 円まで下落し、ドル/円も 115.96 円まで円高が進みました。昨年中国ショック以上の衝撃波でした。その時思ったのが GPIF の含み損額のことです。7-9 月では 7 兆 8899 億円の含み損がありました。『年金が飛んで行く』国会でちょっと叩かれた程度です。職業上戻りは売りコメントしている私自身悲しくなることがあります。ドル/円が 135 円、日経平均株価が 2 万 8000 円とコメントしている人こそが愛国者なのかもしれません。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

**【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】**

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

**【価格変動リスク】**

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

**【レバレッジリスク】**

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

**【信用リスク】**

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

#### 【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

#### 【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

#### 【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

#### 【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

#### 【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

#### 【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

#### 【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

#### 【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。